公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー・千葉県国際交流センター

第109号
2023.3
CHIBA

国際交流つうしん

P.3　多文化共生開発講座

P.6　八千代市＆タイラー市　姉妹都市提携30周年記念写真展2022

目次

P.2　地域日本語教育の現場から
P.3　多文化共生開発講座
～子どもたちと一緒に多文化共生について考える～
P.4～5　事業報告（令和４年11月～令和５年２月）
P.6　八千代市＆タイラー市　姉妹都市提携30周年記念写真展2022
令和５年度 事業計画・外国人法律相談日程
P.7　JICA千葉デスクのページ
P.8　千葉県から世界へ！　～バヌアツ共和国～

広告

「日本語を教える」としたら スリーエーネットワーク

外国にルーツを持つ
高校生を主な対象とした日本語教科書

外国人生徒のための
教科につなげる日本語 基礎編

日本語学習を通し、教科の基礎となる語彙・知識を学びながら、思考力、表現力を養います。シリーズ２冊目『応用編』は４月発売予定。

有本昌代 著
2,200円（税込）　B5判　259頁

補助教材（音声・教師用ツール/ガイド）はこちらから →

最新刊や教材の使い方セミナーの情報等は☞https://www.3anet.co.jp/

広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は出入国在留管理局への出頭が免除されるので、仕事や学業に専念することが可能です。

お問い合わせは…
千葉県行政書士会
www.chiba-gyosei.or.jp/

〒260－0013 千葉県千葉市中央区中央４丁目13番10号
TEL：043－227－8009　FAX：043－225－8634

地域日本語教育の現場から

八街市国際交流協会　日本語教室を見学してきました。

12月10日、八街市国際交流協会の日本語教室に見学に行ってきました。
同協会の教室は、令和3年４月の国際交流協会の設立後スタートし、第２，第４土曜日に協会の会員であるダスキン八街の会議室を借りて、開催しています。
当日は中国、スリランカ等４名の外国出身学習者が日本語支援者とともに、日本語の読み書き、生活や仕事で使う表現等、それぞれのレベル・ニーズに沿ってマンツーマンで学んでいました。
八街市に近い横芝光町にも令和４年秋に新しく“多文化共生プロジェクト”日本語教室が発足し、今回の見学には横芝光町の日本語学習支援者の方もご一緒し、教室の運営方法や広報の仕方等、情報交換をしました。油川・地域日本語教育コーディネーターからは教室で使用するテキストや日本語学習支援方法等、アドバイスがあり、今後の活動に活かしていただきたいと思います。

地域日本語教育関係者ミーティングを開催しました！　12月23日（オンライン開催）

県内の日本語教育にかかわる方々25名にご参加いただき、セミナーと意見交換を行いました。セミナー講師にはNPO法人国際活動市民中心の新居みどり氏をお迎えし、「変わる？変わらない？地域の日本語教室　～多彩な活動のアイディア、そして今後の方向性～」と題し講演をいただきました。その後のグループワークでは、「教室でやって良かった／楽しかった／やってみたい活動」について、活発な意見交換がなされました。今後とも、多くの方々とつながっていけるよう、努めてまいります。

「オンライン日本語クラス」を開催しました！
1月27日・2月3日・10日・17日・24日（全5回　オンライン開催）

県内在住外国人の方を対象に、「オンライン日本語クラス」を開催しました。講師は地域日本語教育コーディネーターの油川美和氏が担当し、約10名の外国人の方々に参加いただきました。また、クラスには「令和４年度日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座」の修了者にも日本語学習支援者として参加いただき、初回クラスの開催前には、同支援者を対象にクラスでの心構えや進行等について確認をする事前研修も行われました。
このクラスは、講師が一方的に文法や語彙の説明をするスタイルではなく、参加者とコミュニケーションを取りながら進めていく対話型活動を主体に展開しました。

参加した外国人の方々は国籍も日本語のレベルもバラバラでしたが、自分の知っている日本語や外国語（英語、中国語など）を駆使して、自分自身のこと、家族のこと、趣味のことなどをお話しされました。回を進めていくにつれてお互いに緊張も解け、より積極的に発話し合う様子を多く見ることができました。質問もたくさん飛び交い、笑いの絶えない和やかな雰囲気の中でクラス活動をすることができました。

地域日本語教育コーディネーターに聞いてみませんか？

千葉県国際交流センターでは、油川（あぶらかわ）地域日本語教育コーディネーターが地域の日本語教室で活動されている皆さんのご相談に対応しています。日本語教室の現場への訪問、センターへの来所、オンライン・メール等による相談も可能です。当センターの書庫には日本語関連の書籍もあり、活動のご参考にご覧いただけます。日ごろの活動において、日本語学習支援方法や使用テキスト等でお困りのことがありましたら、センターまでお気軽にご連絡ください。

千葉県国際交流センター　日本語事業担当　Tel. 043-297-0245　　E-mail　nihongo@ccb.or.jp

多文化共生開発講座　～子どもたちと一緒に多文化共生を考える～

千葉県国際交流センターでは、NPO法人開発教育協会が提供するユニークな異文化理解教材「レヌカの学び」を活用し、中高生と在住外国人がともに多文化共生について考える講座を実施しました。
外国人講師の方々が、出身国にいたときと、来日した後で変化した行動や考え方、習慣などをカードに書いてもらいます。生徒さんにはカードに書かれているエピソードについて、講師が出身国にいたときに感じたことなのか、それとも日本に来てから感じたこと、あるいは習慣なのかを当ててもらうゲームです。
その国というよりも、講師個人の環境の変化による気持ちや習慣の変化について、講師がどんな人なのかを想像しながら、みんなで意見を出し合ってカードを該当国別に仕分けしていきます。その結果、各グループの予想は以下の通りとなりました。

カルロスの学び（ペルー）
「A：先生が怖い」
「B先生がフレンドリー」

バルニーの学び（パキスタン）
「A：お笑い番組が面白い」

アイリスの学び（オーストラリア）
「A:レストランで好きなものを全部注文する」
「B:レストランで注文する量を考える」

范の学び（台湾）
「A:私は学校で毎日昼寝をする」

ここで、講師の皆さんから回答していただきます。参加した生徒さんからは、「グループでのディスカッションが楽しかった」「思っていたイメージと全く違った」「自分自身の思い込みに気が付いた」などの感想が寄せられました。

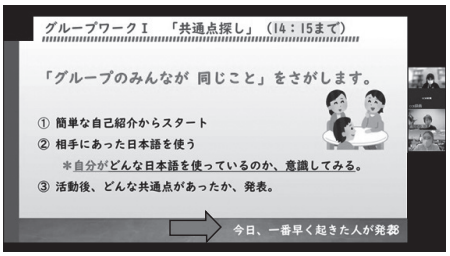
日本のお笑いを初めて見たとき、相方の頭を叩いたりして笑いをとっているのを見て驚きました。パキスタンでは真顔でジョークを言って笑わせます。真逆のコメディで、どちらも面白いです。
正解は、「Aはパキスタン、日本」両方でした。

台湾では小学生から高校生まで、お昼休みには必ず昼寝をしないといけないことが法律で決まっていますよ。ごはんを食べたら、教室の机でみんなでうつ伏せになって昼寝をします。
正解は、「Aは台湾」です。

ペルーの先生はホントに怖いですよ～！！でもペルーでは怖い先生が親から人気なの！私のお母さんは、「カルロスをちゃんとしつけて下さい！」って学校に言ったから、一番怖い先生のクラスにされちゃった。それに比べて日本の中学校の先生は優しかったな～。
正解は「Aがペルー」です！

オーストラリアでは食べ残し、全然OKですよ！残ったら持ち帰って家で食べます。だから日本のように「食べ放題」の店はオーストラリアではきっと倒産してしまいます…。以前、焼き肉の食べ放題でカレーを食べている人を見ました。なぜ焼き肉ではなくカレー？
正解は、「Aがオーストラリア」でした。

◆日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座 in 千葉県　10月22日・29日・11月5日・12日・19日（全5回　オンライン開催）



本講座では、日本語学習支援に関心がある方を対象に、「多文化共生とは何か」、「やさしい日本語を通したコミュニケーション」等について学び、県内11市町村から28名の参加がありました。受講者からは、「きちんと個人とつながるために必要な態度や技術を具体的に学べた」、「関心を同じくする受講生とのグループワークを通じ、刺激を受けた」等の声が聞かれ、今後の活躍が期待されます。

◆災害時多言語支援センター設置訓練　11月7日

災害時に多言語支援センターが、県及び市町村で設置されたことを想定し、在住外国人からのさまざまな相談や、多言語支援センターを運営するためのシフト作成、翻訳ボランティアの確保など、市町村と県で対応できなかった場合の他県への応援申請のシミュレーションなどの訓練を行いました。多文化共生マネージャーの高橋伸行講師からは、グループワークを通じて見えてきた課題の修正は運営マニュアルのアップデートに反映させ、各市町村との対面訓練を繰り返し行い、いざという時にすぐに連絡を取り合える関係を平時から持っておくことが必要だという話がありました。

◆国際理解セミナー　11月11日

一般財団法人ダイバーシティ研究所の代表理事である、田村太郎氏を講師にお招きし、アメリカ、韓国、チュニジア、パキスタン、ペルーの５か国出身の在住外国人がパネリストとして参加し、「多文化理解、共生につながる活動」について、ディスカッションを行いました。地域の自治会でクリーン活動に参加し、近所の方々と交流を深めたという心温まる体験談や、知り合いの外国人が、「病院で【検査】を【Cancer（癌）】と聞き間違えて大騒ぎになった」などのエピソードがジョーク交じりに披露され、会場の参加者たちを沸かせていました。

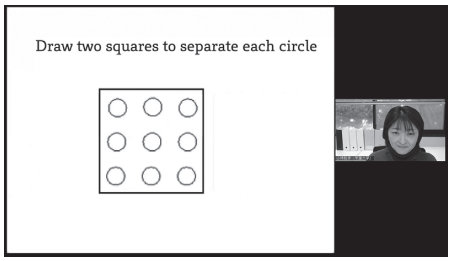
◆語学ボランティア講座　11月13日

10月22日の第１回目「国際会議コース」に続き、第２回目は「国際イベント＆障がい者サポートコース」を実施しました。2019年のラグビーワールドカップの招致に携わった徳増浩二先生のワークショップは、「自分以外の誰か別の人になりきって、英語で自己紹介をする」というなんともユニークなプログラム！受講者の方々もいつもと違う自己紹介を楽しんでいました。後半は視覚障がいや、聴覚障がいの方々へのサポート方法や、ケニアのティカという町で、JICA青年海外協力隊として小野文浩さんが活動されている様子がリアルタイムで配信され、特別支援学校の生徒さんと、グループごとの英語でのオンライン交流も大いに盛り上がっていました。

◆ちば出前講座＠柏南高校　11月14日

県立柏南高校の1年生を対象に、中国、オーストラリア、台湾、ネパール、アメリカ、ペルー、スリランカ、韓国の8か国9名の講師が出身国の紹介をしました。出身国の文化や言葉の紹介に加え、生徒さんからの、「日本でびっくりしたことは何ですか？」という質問に、「初めてウォシュレットを見たときはびっくりした」、「日本の自動販売機の数、多すぎない？」「日本人はなぜ真冬に氷水を飲むの？」など講師たちの日本での素朴な異文化体験談も好評でした。

◆国際理解セミナー　12月4日　（オンライン開催）



JICAと共催で実施した国際理解セミナーでは、前半は千葉大学大学院社会科学研究院の小川玲子先生と、千葉大学国際学術研究院の小林聡子先生の講演、後半は教員のためのSDGｓ研修の報告会を実施しました。小川先生は、日本社会に存在する国籍、障がい、ジェンダー、言語、地域、世代などのたくさんの多様性を尊重するための課題などについてお話され、小林先生の講義では、特別支援学級で学ぶ日本語指導が必要な小中学生への対応についての課題を挙げ、実際に英語でのIQテストを受講者に出題し、ワークを通じて、外国につながる児童生徒たちの実態を受講者に体験してもらいました。右側の「Draw two squares to separate each circle」が問題です。みなさんはわかりましたか？

報告（令和４年11月～令和５年２月）

◆多文化共生出前講座　12月10日（@千葉大教育学部附属小学校）

千葉大教育学部附属小学校3年生を対象に、7月にウクライナ出身の講師が講演を行い、事後学習では子どもたちが世界のことについてグループごとに調べ、保護者向けに発表会を行いました。国旗や時差、民族衣装、動物、建物など、子どもたちならではの視点で、世界のことについて、どんなプレゼンテーションが興味を持ってもらえるかを考えました。日本以外の外国に親しむ活動は、多文化共生に触れる貴重な機会となり、学習したことを一人でも多くの人に伝えていくことが大事なことだと学びました。

◆災害時外国人サポーター養成講座
12月10日（@印西市）、1月14日（@袖ヶ浦市）

災害時に外国人をサポートするボランティア活動を希望する方々を対象に、「やさしい日本語」についての講義や、避難所の巡回訓練を行いました。避難所の受付では、必ずしも歓迎されるとは限らない・・・など講師の方々の実際の経験に基づいたリアルな想定でのロールプレイや、全く日本語がわからない設定の外国人避難民役の方々に対して、戸惑いながらも翻訳アプリなどを駆使して、なんとかコミュニケーションを取ろうと試行錯誤されている受講者の方々の姿が印象的でした。

◆外国人相談基礎知識研修　1月12日　（オンライン開催）

外国人相談業務に従事する方や日本語学習支援者など、日頃外国の方と接する機会が多い方等を対象に、外国人支援を行う際に役立つ基礎知識を習得するための研修をオンラインで実施しました。研修では専門家２名をお招きし、東京出入国在留管理局の建山氏からは「在留管理制度の基礎知識」、認定NPO法人難民支援協会の新島氏からは「日本に住む難民について」をテーマにご講義いただきました。制度や難民のおかれた現状を把握することが外国人支援の一歩にもつながると再認識させられました。

◆外国人相談担当者意見交換会　2月22日　（オンライン開催）

県内で外国籍市民向けの相談業務に従事する担当者を対象に、講演および意見交換会が開催され、14名の方にご参加いただきました。講演は千葉県弁護士会の所属弁護士・中村亮氏に登壇いただき、「外国人が当事者となる法的紛争の注意点（家事事件を中心に）」をテーマに、具体的な相談事例などを交えてお話しいただきました。意見交換会では日頃の活動での悩み事や工夫していることなど、活発な意見交換が繰り広げられました。

ボランティア活動報告

◆ヨウ素工場見学通訳　11月8日
語学ボランティア（英語）　安藤　達夫さん

茂原の合同資源(株)の工場でヨウ素産業の説明を聞き、直結する工場の見学に付き添って工程別の技術説明を通訳させていただきました。木更津での国際会議「ハロゲン結合国際シンポジウム」直後の工場見学でしたので、千葉県産出の貴重な天然資源のヨウ素工場は絶好の機会。合間に各国からの参加者とも交流でき、また通訳しながら自分自身意外に知らないヨウ素のことも学びました。地元で国際会議が開かれたらまたお手伝いしたいです。

◆インドネシア・ボゴール市との通訳　11月28～29日
語学ボランティア（インドネシア語）　アリザ　メグミさん

木更津市とインドネシア・ボゴール市の友好協定締結式に、千葉県国際交流センターのボランティア活動として、インドネシア語通訳を担当しました。特にイスラーム教徒に配慮した和食をいただきながらの両市長の談話が印象深く、日本とインドネシアの政治の仕組みの違いを自分自身も興味深く聞きながらも専門用語の通訳に苦戦しました。私自身は日系インドネシア人であり、今後も両国の交流につながる活動をしていきたいと思います。

◆高校入学説明会　11月13日　語学ボランティア（中国語）　律（りつ）　津（しん）さん

母国の中学校を卒業して、これから日本の高校進学を目指す外国人の子どもたちを支援するボランティア活動に参加して20年になります。当日、不安な気持ちを抱えて説明会に来た中国人の女の子とその両親に話しかけると、すぐに笑顔になり「先生！中国語が話せる！良かった！」と喜んでくれた姿がとても印象的で、改めてボランティアのやりがいを感じました。

八千代市 & タイラー市

姉妹都市提携30周年記念写真展2022にお邪魔しました!

八千代市は、市制施行25周年である1992年にアメリカ合衆国テキサス州タイラー市と姉妹都市提携を結び、国際交流をスタートしました。以来、市民の方々による親善訪問団の相互派遣を計23回行い、お互いの文化に触れながら交流を深めてきました。2022年は姉妹都市提携30周年を記念して、八千代市国際交流協会主催の写真展が勝田台文化センターで開催されました。これまで姉妹都市交流に関係された方々の懐かしい写真910枚と共に、この30年間の交流活動で第一線で英語通訳として活動された、八千代市国際交流協会元副会長で語学ボランティアの瀬下和正さんとともに振り返りました。

1994年に開通した東葉高速鉄道のボルト締結式にタイラー市の訪問団が参加。

毎回来日されていたという、国際交流に熱心なスウィンドル・タイラー警察署長。

ホストファミリー宅の茶道の体験会で。通訳は瀬下さん。

30年間、八千代市の国際交流を支えてこられた瀬下和正さん。

1994年に友好の記念として勝田台文化センター前で記念植樹を行う仲村市長、シュトフマン団長、児童代表。

大勢のタイラー市職員の方々が、日本の訪問団を歓迎してくれました。

タイラー市の公園には、Yachiyo City Japan 6,519マイルの表示版が設置されています。

令和５年度　事業計画

事　業	内　容	時期(予定)
国際交流ボランティア制度	語学、ホストファミリー、文化、事業、日本語の各ボランティアの登録・紹介	随時
ホームページ等による情報発信	在住外国人向けの生活情報やセンター事業等について発信	随時
会報誌「国際交流つうしん」の発行	当センターの事業や国際交流・多文化共生に関する情報等を紹介する会報誌の発行	7月、11月、3月
千葉県外国人相談事業	在住外国人の電話・来所による生活相談への対応（13言語）	随時
外国人のための無料法律相談	外国人の生活上の法的問題に弁護士、行政書士が対応、通訳手配も可（原則第1月曜日。行政書士は奇数月）	毎月
ちば出前講座	在住外国人・JICAボランティアOB/OG等を団体や学校等に講師として紹介	随時
多文化共生社会理解促進講座	外国人講師による出身国の紹介と、ディスカッション等を中心としたクラス授業の実施	随時
日本語学習支援者基礎講座	初心者を対象に、必要となる基礎的な知識や素養を養うための講座	6〜3月
日本語学習支援者フォローアップ講座	日本語ボランティアの指導力向上を図る講座	6〜3月
地域日本語教育関係者ミーティング	日本語ボランティアの活動に役立つ情報の提供や、意見交換等を図るための会議	年1回
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者向けの講演、意見交換	年1回
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座、意見交換	年3回
国際交流・協力等ネットワーク会議	民間国際交流団体や、市町村国際交流協会担当者による情報交換	年1回
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	年3回

令和5年度　外国人のための無料法律相談の日程が決定しました

第１回	４月３日（月）	第６回	８月７日（月）	第11回	11月13日（月）
第２回	５月１日（月）	第７回	９月４日（月）	第12回	12月４日（月）
第３回	５月19日（金）	第８回	９月15日（金）	第13回	１月15日（月）
第４回	６月５日（月）	第９回	10月２日（月）	第14回	２月５日（月）
第５回	７月10日（月）	第10回	10月20日（金）	第15回	３月４日（月）

世界とつながる国際協力出前講座

新型コロナウイルス発生前までは、学校等での国際協力出前講座には帰国隊員が対面で登壇し任国での生活や文化、活動の話をしてきました。しかしコロナ禍でオンラインが導入されてから、派遣中の協力隊員に登壇してもらうオンライン出前講座も増えてきました。

先日、とある高校での出前講座に派遣中隊員が4名登壇し、スマートフォンから現地の町や学校の様子を配信してくれました。また、とある中学校では、派遣中の隊員が配属されている学校と繋いで、音楽を通じたオンライン文化交流授業を行いました。コロナ前より海外旅行のハードルは上がったものの、海外と繋がるハードルは下がったように思います。学校だけでなく、一般の方々にもJICA海外協力隊員が派遣されている場所を体験していただけるイベントを企画中です。お楽しみに！

協力隊レポート ＜木村愛花隊員／船橋市出身／ケニア派遣＞

活動地：ケニア　ナイロビ　ナイロビチルドレンリマンドホーム
職　種：青少年活動

私の活動地域である首都ナイロビは、ケニアのみならず、東アフリカの政治・経済・文化の中心地である。都市部には巨大ショッピングモールが立ち並ぶ一方で、国内最大のキベラスラムをはじめとするスラムも数多くある。人口増加に伴い、経済格差や失業率の問題は深刻で、路上で物乞いをする家族や子供たちに会わない日はない。

私は、罪を犯した子供やストリートチルドレンなど、警察に補導・保護された7～17歳の男女を、裁判所による処遇が決定するまで一時的に拘置する施設（リマンドホーム）に配属されている。リマンドホームの一義的な目的は拘置であり、教育・更生ではないため、子供たちは学齢期であるにも関わらず、教育を受ける機会が圧倒的に少ない。また、入所中は施設外へ出ることができず、学校へ通うことも叶わない。そのため私は、算数や英語などの基礎教育や、社会的スキル向上のためのトレーニングを導入し、現地スタッフに協力してもらいながら実施している。

よく笑い、食べ、日焼けしたケニアでの生活がもうすぐ終わる。活動の持続性や必要性、ケニア流のしつけ方法などに悩み、時にはケニア人スタッフと討論して、涙することもあった。一方で、そのような時には、配属先の同僚や子供たち、ケニアの母親的存在のおばちゃん、集落に住む人々、協力隊の同期、日本で応援してくれている方々など、たくさんの支えを感じた１年でもあった。残りわずかなこの貴重な時間を大切に過ごしていきたい。

JICAについての問い合わせはコチラまで
千葉県国際交流センター内　JICA千葉デスク
国際協力推進員　木村　明日美
TEL：043－297－0245　／　090－4024－0441
FAX：043－297－2753　E-mail：jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp

千葉県から世界へ!

バヌアツ共和国

※外務省ホームページより引用

千葉県流山市出身の山﨑郁子さんは、JICA海外協力隊として2017年より2年間、環境教育の職種でバヌアツ共和国に派遣されていました。山﨑さんにバヌアツ共和国の魅力と活動内容について語っていただきました。

【バヌアツ共和国について】

バヌアツはオーストラリアの東に位置する島国です。南北に島が点在し、全部で83の島で構成されています。面積は新潟県ほどで人口は約31万人です。第2次世界大戦中はフランスとイギリスの共同領となっていたことから、現地の言葉であるビスラマ語の他に、英語とフランス語が公用語となっています。年間を通して高温多湿で、特に日本の冬にあたる12～2月は厳しい暑さが続きます。自然豊かで、ゆっくりとした時間が流れているバヌアツは2006年に「世界一幸せな国」に選ばれています。

【バヌアツの産業】

ヤスール火山の噴火

バヌアツの産業の中心は観光業であり、近隣の国を中心に観光客が訪れています。美しい海は以外にも、バヌアツ特有の観光地は多くあります。

タンナ島にあるヤスール火山は世界で最も火口に近づけると言われており、火口付近から見た光景は地球の息を感じ、迫力満点です。

また、ペンテコスト島はバンジージャンプ発祥の地と言われ、現在でも成人の通過儀礼としてバンジージャンプが行われており、その様子を近くで見ることができます。古来の方法を守り、歌や楽器が響く中での儀式は神秘的です。

飛行機の便も少なく、日本からの観光客は少ないですが、自然溢れるバヌアツの世界観を沢山の方に体感していただきたいです。

ペンテコスト島の
バンジージャンプ

【バヌアツでのボランティア活動】

私はバヌアツの中で一番大きいエスピリトゥ・サント島にあるルーガンビル市役所で環境教育の活動をしていました。自然豊かな土地を守るために、ゴミの削減や捨て方について地域の方に指導を行ったり、チラシやポスターを作成したり、市役所のゴミ収集に関係する制度の見直しなどを中心に行っていました。特に生ごみを使用して堆肥を生産し、販売する活動は、ゴミの削減だけでなく、市役所の収益向上と、質の良い野菜の収穫に繋がりました。バヌアツでは、リサイクル施設やゴミの焼却施設もない中で近年の発展によりゴミは増え続けています。海岸でゴミを拾うと、違う国の言葉が書かれたゴミが流れついていることもあり、他人事とは思えない気持ちにさせられていました。ゴミ問題を始めとした様々な環境問題について考えさせられる貴重な経験をした2年間でした。

市場から出るゴミの量を計測

千葉県国際交流センター

賛助会員募集中!

国際交流　国際協力　多文化共生社会づくり

当センターの活動の趣旨に賛同し、支援してくださる方を募集しています。会員には本誌の送付、情報提供、有料事業参加への割引などの特典があります。

個人会員　1口(2,000円)以上から
団体会員　1口(10,000円)以上から

Instagram（https://www.instagram.com/chiba_international_center/）、
Twitter（https://twitter.com/chiba_ccb_ic）始めました！
「千葉県国際交流センター」で検索して、ぜひフォローしてください。

公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー　千葉県国際交流センター
〒261-8501 千葉市美浜区中瀬一丁目3番地 幕張テクノガーデンD棟14階
TEL：043-297-0245　FAX：043-297-2753　E-mail：ied@ccb.or.jp
事務所が移転しました!

https://www.mcic.or.jp/へgo!
センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行
(7,11,3月)